

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	SOU PERSONAL 北谷		
○保護者評価実施期間	令和8年 2月 14日		～ 令和8年 3月 1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数) 18名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 14日		～ 令和8年 3月 1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数) 6名	(回答者数)	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 10日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門職の充実と支援体制の質の高さ	<ul style="list-style-type: none"> 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士などの専門職が連携し、多職種でアセスメントと支援計画の検討を行い、専門的視点を日々の支援に反映している。 支援前後のミーティングや情報共有を徹底し、児童の課題や成功事例をチームで共有することで、関わり方や支援方法を統一している。 	<ul style="list-style-type: none"> 専門職同士の定期的なケースカンファレンスを体系化し、評価・目標・支援方法をより構造的に検討する仕組みを作る。 専門職が他職種へ研修を行うなど、内部で専門知識を横断共有する仕組みを強化する。
2	個別療育中心の支援体制	<ul style="list-style-type: none"> 専門職が初期アセスメントを行い、発達段階・特性・強みと課題を明確にした上で、個別支援計画を具体的な課題レベルまで落とし込んでいる。 課題の難易度や支援量をその日の状態に合わせて柔軟に調整し、スモールステップで成功体験を積み重ねられるよう工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> 年齢・発達段階別に到達目標モデルを整理し、「今の段階にいるのか」「次のステップは何か」が明確に見える構造を作る。担当者が変わっても一貫性のある個別療育が提供できる体制を整える。
3	環境・安全・コミュニケーションの配慮が整っている	<ul style="list-style-type: none"> 子どもへの声かけは短く分かりやすい表現を意識し、視覚支援や具体物を活用しながら理解を促している。 保護者とは日々のフィードバックや面談を通して情報共有を行い、支援内容や成長の様子を具体的に伝えることで共通理解を図っている。 	ヒヤリハット事例を蓄積・分析し、月次で共有・改善策を検討する仕組みを強化する。避難訓練や緊急時対応訓練も定期的を実施し、実践的な安全体制を整える。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域との交流が少ない	送迎をほとんどおこなっていないなど、外部との関わりが薄い。	もっと外部に目を向けて、地域交流を意識していきたい。
2	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会があるかわからないという声があった。	保護者会などで自宅でおこなってほしいことなど共有しているが、参加できていない保護者には伝わっていなかった。	保護者会に参加できなかった保護者への資料や情報提供をおこなっていく。
3	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますかというお声が多かった。	事業所がオープンしてからまだ開催時期になっていない為。	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等も含め、保護者へ周知の場を設けたい。